

第25回東京女子医大漢方医学研究会

日時 平成3年6月27日(木)午後5時30分～7時
場所 中央校舎 1階会議室

演題

(司会) 田中 朱美

1. 十全大補湯が有効であった神経性食思不振症の1例

(谷津保健病院 消化器内科) 新井 信・藤野 信之
(東京女子医大 消化器内科) 小幡 裕

2. 多量の喀痰を有する患者に対する柴朴湯の効果

(第一内科) 千代谷 厚・玉置 淳・武山 廉・
山内富美子・近藤 光子・兼村 俊範・
金野 公郎

3. 糸球体腎炎に対する柴苓湯の効果

(第四内科) 佐藤 孝子・西川 恵・松村 治・
樋口千恵子・佐中 孜・杉野 信博

4. アルダクトンAと芍薬甘草湯による多毛症の治療

(第二内科) 野村 馨・出村 博

特別講演

(司会) 田村 敦子

日常診療における漢方および鍼灸の応用—症例を中心に—

(日産厚生会玉川病院副院長) 代田 文彦
当番世話人 田村 敦子

1. 十全大補湯が有効であった神経性食思不振症の1例

山内富美子・近藤 光子・兼村 俊範・
金野 公郎

(谷津保健病院 消化器内科) 新井 信・
藤野 信之
(東京女子医大 消化器内科) 小幡 裕

神経性食思不振症の治療は心理療法が中心となるが、症例によって個別性があり、困難な場合が多い。また、漢方学的な証もそれぞれ異なるが、証に応じた方剤が有効な場合がある。今回、十全大補湯が有効であった神経性食思不振症の1例を経験したので報告する。

症例：31歳，女性，両下肢浮腫，両下肢痛を主訴に当科を受診し，重篤な神経性食思不振症と診断した。入院にて輸液，カウンセリングを行ったが状態は改善しなかった。漢方医学的には，典型的な気虚，血虚の状態であったため，十全大補湯を処方したところ，自覚症状，栄養状態および貧血の改善，体重増加をみた。

2. 多量の喀痰を有する患者に対する柴朴湯の効果

(第一内科)

千代谷 厚・玉置 淳・武山 廉・

種々の呼吸器疾患に対して漢方薬を用い有効である症例をしばしば経験するが，その薬理作用に関しては不明な点が多い。今回我々は，粘液線毛輸送能に対する柴朴湯の影響を知ることを目的として，基礎的および臨床的検討を行った。柴朴湯は，細胞内cAMPを増加させることにより線毛細胞周波数を用量依存性に増加させた。また，上皮細胞粘膜側からのNa吸収を増加させ，気管からの水分再吸収を促進させることがうかがわれた。痰の喀出困難を訴える患者に柴朴湯7.5g/日を2週間投与したところ痰量は減少し，痰の切れも改善した。粘液線毛輸送系に対する本薬剤の有用性が示唆された。

3. 糸球体腎炎に対する柴苓湯の効果

(第四内科)

佐藤 孝子・西川 恵・松村 治・
樋口千恵子・佐中 孜・杉野 信博

糸球体腎炎に対する柴苓湯の効果を検討するため，自然発症ループス腎炎モデルマウスおよび糸球体腎炎